



アイダエンジニアリング株式会社 代表取締役社長 会田仁一氏

# 創立90周年、いまや日米欧亜に拠点を持つ世界のアイダへと成長

アイダエンジニアリングは今年、創立90周年を迎える。独自技術にこだわり続けた製品開発が顧客のニーズをとらえ、プレス機械の成形システムに数多くのイノベーションをもたらしてきた。今では、日米欧亜の世界4極に生産と営業サービス拠点を有し、顧客と極めたイノベーションをベースに世界トップメーカーへ躍進中だ。100周年に向けた戦略を、会田仁一社長に千野俊猛日刊工業新聞社社長が聞いた。



日刊工業新聞社 代表取締役社長 千野俊猛

## 開発と品質で「デフレ」乗り越える

千野 創立90周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。特に直近10年間は変化が激しかったので、本日はそこを中心にお話しを進めます。

会田 パブルがはじけたのが1991年。我々はフォーミング加工用の設備機械を手がけておりますので一般消費財の状況とはちよと異なります。我々が一番底だったのは1992年。それから1997年に回復してきたかと思いきや、今度はアジア不況などに直面し、2002年度

には最悪の赤字計上を余儀なくされました。これは上場以来初の赤字でした。以降、増収増益記録を更新するまでに持ち直し今日に至っています。

千野 日本経済が落ちてきたので、企業経営は大変だったと思います。そうした苦しい中で、会田社長がこれだと思いついて取り組んできたことは何でしょうか。

会田 やは、開発ですね。開発と生産性向上、それから品質です。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

会田 以前から、プレス機本体がインテリジェントにならなければいけません。油圧式が主流でしたが省エネに課題がありました。何かメカトロで実現できないかというところでサーボモーターに着目しました。最初に市販の小さなサーボモーターを使って開発を始めたのは今から13年くらい前のことです。しかしこれは小型の機械しか手がけられない。強力な大型のサーボモーターが必要になりました。いろいろなメーカーに問い合わせましたがよいものがなく、やはり自社で開発しないといけないということになりました。幸い、モーター以外のメカ部分は過去の技術の蓄積が生かされました。



30t パワープレス (1936年製作)

## 次世代加工を実現したU/L

千野 汎用精密プレス機械の「U/L」シリーズでも弊社の十大新製品賞を受賞しています。シリーズ化して非常に売れているようです。

会田 これは非常に剛性が高いなど、今までになかった発想によるプレス機械です。世界初の9点支持を実現し、片側にかかる偏心荷重に対して何ら影響されることなく高精度に成形加工でき、非常に素晴らしい次世代タイプのプレス機械です。この考え方はほかにないかと。おかげさまで、結構出ています。このために相模工場だけでなく、津久井工場でも生産しています。

千野 御社の歴史を拝見していますと機械だけではなく加工工程前にイタリアで新たに買収した会社に生産拠点を移しました。なぜ買収したかと申します、米国の場合自分たちの力で立ち上げたので人を訓練して、機械を設計できるような状態まで非常に時間がかかりました。お客さんについても、新規に開拓しなければならぬ。これに対し買収のメリットは、訓練時間の合理化とともに、買収先のお客さんが一緒についてくることです。買収した英国の会社もお客さんがついてきました。このためイタリアでも買収に踏み切ったわけですね。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

会田 以前から、プレス機本体がインテリジェントにならなければいけません。油圧式が主流でしたが省エネに課題がありました。何かメカトロで実現できないかというところでサーボモーターに着目しました。最初に市販の小さなサーボモーターを使って開発を始めたのは今から13年くらい前のことです。しかしこれは小型の機械しか手がけられない。強力な大型のサーボモーターが必要になりました。いろいろなメーカーに問い合わせましたがよいものがなく、やはり自社で開発しないといけないということになりました。幸い、モーター以外のメカ部分は過去の技術の蓄積が生かされました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

## グローバル戦略 4極軸にグローバル展開

千野 業績面は難しい10年を乗り切り、好調ですね。

会田 連結決算ベースで好調さは持続するものと思えます。この10年間、日本国内の市場はタイトになってきています。そこで市場を広げるため、不況時に、マレーシア、米国、中国、欧州に工場を立ち上げました。このため一時期業績が苦しくなったときもありましたがおかげさまで今ではマレーシアと中国はほぼ能力いっぱい、生産を伸ばしています。欧米はちょっと苦戦していますが、欧米拠点の本来的なキャパシティを考えると、今の600億円強の売り上げが、700億円強に安定してやっていくと思えます。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。



UL-800 & 4000

## 100周年へ 失敗おそれず輝く会社に

千野 100周年に向けて、これからの10年100年をどうやってやらなければいけないか、おっしゃいますか。私は21世紀前半の付加価値は「健康」「福祉」「安全」「快適」「健康の五つがキーワードになる」と思っています。

会田 まったく、おっしゃる通りです。環境や省エネ、省資源はもっともって厳しくなっています。半面、これらは我々にとってチャンスだと考えています。安全についても、我々の機械はもっと高度化していかなければと思っています。そこに新たなイノベーションが必要になり、新しい付加価値を生み出さざるを得ません。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。

千野 アイダエンジニアリングといえは世界のプレス機械の歴史を刻んできた会社です。この10年間の技術開発では、やはり世界初のサーボプレス機を解凍しました。



http://www.aida.co.jp/ Click!

TEL042-772-5231(代表) 本社・工場/〒229-1181 神奈川県相模原市大山町2-10

Click!

本社・工場全景 (神奈川県 相模原市)